

～薔薇色の農村活性化を目指して～

高須賀年男さん（東温市（旧川内町））

[有東谷園芸 取締役]

[東温市青年農業者協議会 地区理事]

[東温市河之内地区集落活性化支援員]

生年月日：1976年7月23日生まれ



☆経営概況☆

（経営規模、栽培品目、労働力等）

経営形態：法人経営（有限会社 昭和61年7月1日設立）

経営作目：バラ（水耕栽培）33a ミシマサイコ 10a 新テッポウユリ 10a

労働力：父（代表取締役）、母、本人、妻の4人

常時雇用1人、臨時雇用1人

☆ここがポイント☆

（特徴的な経営や栽培方法、就農の経緯等）

実父で代表取締役の高須賀朝三氏が開発し、現在、世界7カ国で特許を取得しているバラの「アーチング栽培法」により、高品質なバラの切花栽培を実践している。

年男氏は、幼い頃から父朝三さんの影響でバラ栽培に興味を抱き、高校卒業後直ちに就農した。結婚後は妻の貴代さんも一緒に農作業に従事している。

※「アーチング栽培法」は、高須賀朝三氏、横田禎二氏、富樫康雄氏等により共同開発されたバラ切り花栽培法。ひと株のバラを採花用の新梢部（シンク機能）と生長のための養分確保の枝葉部（ソース機能）に分業させ、枝葉部をアーチ状に折り下げ的方法により株元に光が十分にあたり、たくましい新梢が発生し、水揚げが良く、スプレー品種（枝分かれして多くの花をつける品種）ではスプレー率が高い等、高品質のバラが育つとされる。

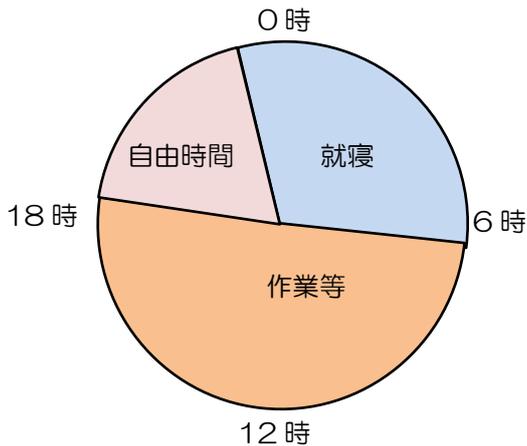


バラの「アーチング栽培」のポイント「捻枝」



バラの摘心作業

【一日のライフスタイル】



【普段の生活について】

ライフスタイル
(作業や余暇の使い方等)

年男氏は、バラの栽培と出荷調整を中心に農作業に勤しむ一方、趣味の「海釣り」や「サイクリング」、鳥獣害対策も兼ねた「ハンティング(散弾)」も余暇を利用して楽しんでいる。
また、夏には地区のソフトボールチームに所属し、名サードとして市内のリーグ戦で活躍しているほか、現在は東温市から、地元河之内地区の「集落活性化支援員」に任命され、地域再生のための拠点作りや、活性化イベント等の企画・立案に積極的に携わっている。

【一週間のライフスタイル】

主力のバラ栽培は周年出荷であるため、特に暇時期とした期間は無く、年間を通じて作業内容は平均している。
高知県と県内の花卉市場に、週2回づつ出荷しており、出荷日に併せた一週間の作業ローテーションとなっている。

月	火	水	木	金	土	日
バラハウスの管理とその他農作業	その他農作業(随時休暇)	バラの収穫と調整	バラの箱詰めと市場出荷	バラハウスの管理とその他農作業	バラの収穫と調整	バラの箱詰めと市場出荷



水曜と土曜日はバラの出荷調整日。因みに年男さんはフラワーアレンジメント資格も取得している。

☆これからの夢や目指すもの☆

バラの栽培面では、市場性に優れたオリジナル品種の開発を行い、更なる経営の安定化を目指したいと考えている。

一方、東温市の「集落活性化支援員」として、集落内での「農村カフェ」開設や、これを拠点とした新たなイベントの開催計画を仲間とともに検討し、都市住民との交流を通じた地域活性化を図りたいと考えている。

☆メッセージ☆

「農業は殆どの場合、職場と生活の場が重なっている。農村の活性化のためには、何はともあれ、まず我々農家が活性化し元気になることが大事だと考えます。」